

委員提言「求められる中間支援」

～企業CSR、ボランティア活動から中間支援組織を考える～

2013.10.18 小田原市市民活動推進委員会

富士フィルム 片野一幸

1. CSRの考え方

誠実かつ公正な事業活動を通じて企業理念を実践し、ビジョンを実現することにより、社会の持続可能な発展に貢献する。

2. なぜCSR活動をするのか？

経済的・法的責任を果たすことはもとより、さらに、社会の要請にこたえるよう、企業市民として、社会における文化・技術の発展や環境保全に寄与するため活動する。

3. CSR、ボランティア活動詳細（富士フィルム他小田原市内企業5社）

- ・対象として「学術・教育」「文化・芸術・スポーツ」「健康」「自然環境保全」を中心とする。
- ・活動の推進にあたっては、NPO/NGO、地域社会等とのコミュニケーションやパートナーシップを大切にする。
- ・従業員のボランティアへの自発的参加による地域との共生、社会への貢献を大切にし、それらの活動を支援する。
- ・事業を通じた社会・地域貢献（東日本大震災時の写真救済ボランティアなど）
- ・富士フィルムグリーンファンド（自然保護を対象にした、助成や支援基金。添付資料）
- ・箱根の森再生プロジェクト（森林保全作業体験などを通じ自然環境保全を学ぶ）
- ・自然再生プロジェクト（秦野市や東海大学、地域住民と「IT実験村」を開村しITが環境保全に役立つのかを実証、検証）
- ・かながわ森林づくり（「県民参加の森林づくり」一日体験型ボランティア）
- ・クリーンハイキングツアー（箱根山を中心にバスを使ってクリーンハイキングを実施）
- ・クリーン酒匂川、コアジサシなどに各社労使で長年参加
- ・事業者周辺の美化清掃活動

<労組主体>

- ・中国植林ボランティア（内モンゴル自治区ホルチン砂漠での植林ボランティア）
- ・富士山の森づくり（富士山御殿場口5合目付近での植樹ボランティア）
- ・上部団体やNPOを通じて中古衣類を世界各地の難民へ送る活動
- ・ペットボトルキャップ、書き損じはがき、使用済み切手を集めワクチンやラオスの子供の就学費用にする活動
- ・年末その他のカンパを実施し、地域福祉施設や原爆病院へ送る活動

4. 中間支援組織に求めること

先程紹介したCSRやボランティア活動内容は各企業ホームページで見ることが出来るが、かなり興味の有る人でないと見ない。

また、先日見学した市民活動サポートセンターや女性プラザ、国際交流ラウンジ等の公共・公益施設も余り多くの方が認識しているものではない。

両者（社）を今のまま結びつける事はかなり難しいと感じています。

まず、企業の取り組みを中間支援組織が市を通じて（組織独自で情報収集出来れば市を介さなくて良いが）一元管理出来ればと思う。

その情報をもとにNPOや市民団体が助成金や支援を企業に申請する中間支援をしたり、企業や労働組合の取り組みに賛同した団体や個人が活動に参加出来る窓口の役割を中間支援組織が担えたらと思います。

企業や労働組合がボランティアなどを実施する際、例えば集まったカンパ金をどこの団体へ持ち込めば有効に使って頂けるか？などかなり迷う部分も中間支援で紹介してくれると助かる役割です。

今後発生する「これってどこに相談すれば良いかな？」を相談できる機能も有るとうれしく思います。

5. (仮称) 市民活動交流センター

市民会館の会議室機能を交流センターに整備する予定との資料を頂いたが、市民会館同様の個室で10名前後の会議が出来たり、オープンスペースで企業とNPOが交流出来れば良いと思います。

また、料金（格安希望）を払えば、企業や労働金庫、全労済などの会議利用も可能ならば、利用範囲は広がると思われます。

今までの4拠点が集約されるので、会議室利用状況をみて優先順位（市民団体、NPO>企業他）は設けた方が良くと思います。